

## 直近の金融市場動向について

### 新興国を中心に通貨・株式が下落

23日にアルゼンチンペソが急落したことなどをきっかけに新興国を中心に通貨・株式が大きく下落しました。アルゼンチンでは、インフレ率が高止まりしていることや、アルゼンチン中央銀行が、減少する外貨準備を維持するために為替相場の変動を容認するとしたことなどから、アルゼンチンペソは23日、対円で前日比13.3%下落しました。

新興国通貨の下落の背景には、米国の量的金融緩和縮小が開始し、新興国から資金が流出するとの懸念があります。特に、経常赤字が大きい国では、下落率が相対的に大きくなっています。

また、23日に発表された1月の中国HSBC製造業PMI（購買担当者景気指数）速報値は、景気の拡大・縮小の境界である50を下回りました。オーストラリア、南アフリカやブラジルなど、中国への輸出額が大きい国では、中国の景気減速が懸念されています。

加えて、トルコなど一部の新興国では海外投資家の間で政治リスクの高まりが懸念されています。

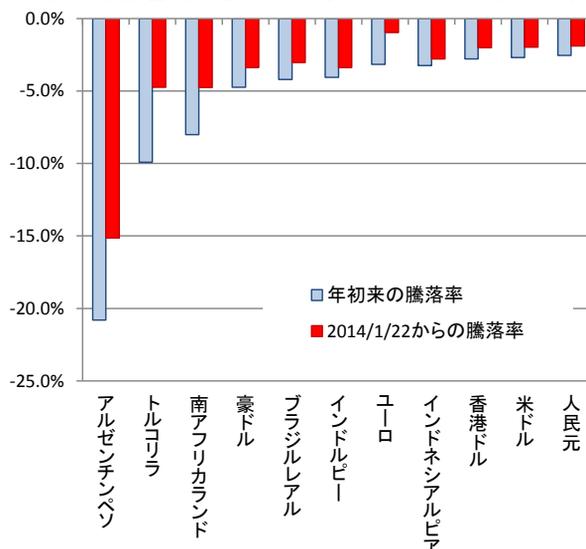
### 投資家にリスク回避の動き

新興国市場の下落を受け、先進国株式市場でも、投資家のリスク回避の姿勢が強まり、利益を確定する動きが見られました。一方で、IMF（国際通貨基金）は、今年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は昨年を上回る3.7%と見ています。特に先進国は昨年を上回る2.2%の成長となり、世界の景気を牽引するとの見通しを示しています。

市場では、先進国の景気回復による新興国の輸出拡大を通じて、新興国通貨が落ち着きを取り戻すとの見方もあります。

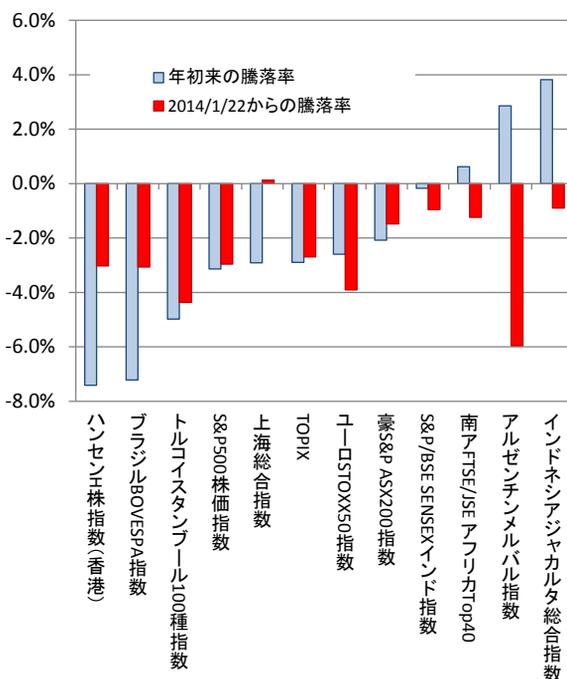
以上

【図1】各通貨の騰落率(対円)：2014年1月27日時点



(注)1月27日は日本時間14時頃の値

【図2】各国株価指数の騰落率：2014年1月24日時点



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成